五少年宝島に行く

著者　谷村　瞬　昭和三十二年著

目　　次

その一　出発前　　　　　　　　　　　　　　　　七ページ
台風十八号に出会う
第二の戦い
第三の戦い
グリーンの活躍
モンテクリフト島見える
スチュピシドファロの最後
ついにフランスに帰る

出てくる人

グリーン…………**フランスの王子だ。とても頭が良く勇敢で強い。**
エブラリー………グリーンの家来。頭も良く勇敢で鉄砲がうまい。
ジューン…………グリーンの家来。とても強くて勇敢である。怒ると凄い。
ショライ…………グリーンの家来。頭が一番良い。勇敢でとても強い。
ルシド　…………グリーンの家来。良いと思ったことは絶対にやる男

ライトアイヒ……アンドビリアの家来。とても強い。
スチュピシドファロ……とても悪賢い。
カイー　…………ファロの家来。とても強いがライトと戦い…

その一　出発前

ここはフランスのジェニーの城だ。グリーンの父フクートが占いの地図を見て、そこにグリーンが来て、「お父さんその地図を見しろ」と言いました。

するとお父さんは「ウーム」と言ってグリーンに地図を見せました。
そして父は「これは宝の地図だ。これはクワイト・ダンテツの父エドモンド・ダンテツが埋めた宝だ。」と言った。するとグリーンが「何処に埋めたのですか。」と言うと「この地図を見れば分かる。」と父が言った。
するとグリーンが「僕に行かせて下さい。」と言った。すると父は「行きたければ行きなさい。」と言った。グリーンは「はい。」と言った。地図を持ち奥に行った。

そして朝、船の用意や準備は全部グリーンとエブラリー、ジョーン、ショライ、グレシッドの五少年が行くと決まった。ハヤブサ号に乗って行った。ボー出発した。
そしてズンズン行った。

メロリ島に着いた。みんな降りた。するとﾀﾞｯﾀﾞｯﾀﾞｯと鉄砲の音が鳴った。グリーンの頭の上をヒョーと撃った。五少年は鉄砲を持つとダンダンと鉄砲を撃った。敵はバタバタと倒れていった。すると騎馬隊が来てパカパカといった。五少年の前に馬が五頭来た。バンバンバンと鉄砲が鳴ったと思うと敵はバタバタバタと倒れた。すると五少年はパカパカと船に帰っていった。

それからギイギイ船は行った。すると黒雲がかかった。ピューピューと風が吹いた。
波がダンダン強くなった。ドボンドボンドボンと波が来た。

台風十八号に出会う

ドカンとといったかと思うと船は傾いた。するとエブラリーがグリーンの部屋に来て「大変だ。台風十八号が来た。そして船が傾いています。」と言った。
するとグリーンは「台風が来たから気をつけろ」と言った。甲板でジューンが立っている「すごい風だ。船はだいじょうぶか。つぶれんか。」とジューンが聞いた。
グリーンは「だいじょうぶ。心配するなそっちはどうだ。」と言っただけだ。
するとドカーンと大きな波が来た。「気をつけろ危ないぞ。」とグリーンは言った。
ジューンは「オーケー」と言った。それから台風は一日中行った。
次の日は何でもなかった。ギーギーとハヤブサ号はまたも進んだ。

二日経つとトイレ島に着いた。その時だ。パカパカと言う物音が聞こえた。
バーンとパタパタと馬に乗っている士官が馬から落ちていく。ある士官が五少年を見つけ

鉄砲を向けた。その時ルッドが剣を抜き、士官をついた。「ギャー」と倒れた。他の士官が五少年を見つけて剣を持って来た。「なんだとヘッポコ野郎。負けてたまるか。」グリーンが言った。「そうだ。そうだ。」とショライが言った。五少年は剣を抜き戦った。やっつけているうち、ドンドンという音がした。行ってみるとそこは戦だ。
さっきの士官の帽子と一緒だ。向こうを見ると向かっている三分の一ぐらいだ。だから三分の一ぐらいの方に味方しようと思った。そして行ったら、大将はアイドイビリヤだった。敵の大将はマチョウシドフュフローだった。
「大将。馬はありますか。」とグリーンは聞いた。
「アーあるよ。使うかね。」ビリヤが言った。
「五頭、馬をちょっと貸して下さい。」
「よろしい。」
「では、貸してくれるんですか。」
「そうだ。」
「ありがとう。」
「だけど君。僕たちの味方になるか。」
「それは決まっているさ。」
「ジャア味方になってくれるか。
「うん。」
「ホンなら貸してやる。」
「ありがとう。」
「あすこの部屋にしまってあるよ。使いたまえ。」
 そして五少年は馬車を作ろうと思ったら
「なあんだ。馬車を作るか。ホンならあすこにあるぞ。」とビリヤが言った。
先ず馬車に乗り、するとルシドは馬の尻をピシリと叩いた。ヒヒーンと馬はいなないた。ダッダッダと馬は敵に向かって走った。ルシドはピシリピシリと馬を何回も叩いた。
ドッカン。馬は敵に突っ込むと、馬車を一人ずつ馬に乗った。
人を切っていた。ババン鉄砲の音が聞こえた。味方が攻めてきた。ペーとラッパを吹くと敵の騎馬隊が向かってきた。なんだと思ってラッパを吹いた。味方がまたも騎馬が来た。横からダダンと鉄砲が聞こえた。だが味方は散々負けて逃げてきた。
味方の大将はアンドビリヤだった。また戦う準備をしていた。敵のファロは海賊島に行っていた。

第二の戦い

またもアンドビリヤの言いつけでグリーン達の軍、三千人を連れていった。
敵は三千五百人。ババンと大砲の音がした。カイーが「ヤアヤア敵のライトアイー出てこい。」と言った。「オオー。さあ来い。」とライトが言った。ギギリとカイーが押していった。「何だと。」とライトが言った。するとポーンと剣の音がした。
ライトが「へなちょこのくせして、よくもライト様と戦ったな。」
「何だと。貴様の方がへなちょこだ。」
「ヘンこいつ。この野郎。エエーイ」
ガラガラと馬から落ちた。二人とも組んだ。もう剣など使ってない。
「この野郎。」とライトが言った。
「ヘンなんだ馬鹿野郎。」その瞬間だった。ガーンと岩にぶつかった。
「いてーい。」「なんだこんな野郎に負けてたまるものか。」
カイーは十八歳だ。ライトは三十歳だ。そしてライトが組み伏せた。初めはとてももがいていたがとうとう諦めたのかやめた。
「合戦だ許せ。」といったと思うとライトは喉をナイフで裂いた。

「オーイ敵のカイーを討ち取ったぞ。」と大きな声でライトは言った。
すると敵は逃げていった。
するとアンドビリヤがとても喜びそして家来一千人をやった。

第三の戦い。

またもグリーンは三千人の家来、そしてライトマインは五百人をつれて戦いに出た。
その中にイチナーもいた。するとパカパカと馬のひずめの音がした。バンバンと味方は鉄砲を撃った。「ギャー」敵の騎馬隊の一人が落ちた。
「誰だ。カイーを殺した人は。このグシドビラン様が仇をうってやるぞ。」とグシドビランは言ったその時。
「このライトマインだぞ。」
「相手にとって不足ない。エーイ」
「なんのター。」「エーイ。」
 ペチンと剣の音がした。エブラリーがビランを狙ってダダーン鉄砲を撃った。
「ギアー畜生。」バッタンと死んだ。
するとまた「今度はグシドビリヤが死んだぞ。」と言った。

またも敵は逃げていった。そしてライトはもう千五百人だった。

グリーンの活躍

またも合戦だ。五千人と五千人の合戦だ。初めは鉄砲で撃ったが、もう鉄砲の弾がなく、剣で戦っている。三時間ぐらいたつと「一人勇者を出して戦え。」と言う声がした。
敵はカイーとグシドビリヤが死んだのでクリマアを出した。味方はグリーンだ。
鉄砲の音がした。パチンと剣と剣の音がし、「エイ。ヤー。」と言う声もした。
「エエイ」とグリーンが言ったかと思うとクリマアは死んでいた。

そしてグリーンはアンドビリヤの許しを受け、モンテクリフト島に向かうこととした。家来百人を連れていくこととした。そして馬百十頭など色々な物をもらうと明日の朝行くこととした。いいご馳走を食べてから夜グッスリ眠れた。
次の朝用意が出来た。
ボー船はグングン進んでいった。もうトトレ島は見えなかった。グングン進みゴローミ島が見えた。ルシドが「行くか。」と言ったがみんな賛成しなかった。
すると強風が吹いたので一周回ってしまったがそうするとゼーン島に着いたら敵がいたので大奮戦をして勝った。敵は十人死んだ。敵は全部で五十人だった。そしてまた航海を続けた。

モンテクリフト島見える

　ショライはジューンの所に行き「オーイ。モンテクリフト島が見えるぞ。」と言った。
「どう。」と行ってみるとやっぱり見えた。グリーンにも知らせろというので知らせた。
そして船を速くした。そして一時間ぐらいたつとモンテクリフト島に着いた
「直ぐさま行け」とグリーンが言ったのである岩を数えようと思ったが他の岩がコテコテあった。
ちょっと行くと敵がいたので大奮戦をして勝った。敵は百人だった。もう味方は四十人だったが強い人ばかりだ。ガラガラと岩をどかして行った。
　ついに十九の所だった。あと一つというのになかなかその岩が見つからない。
やっと穴があった。中に入るとここにも敵がいた。エブラリーが鉄砲を撃った。
ショライが行こうとしたら誰かが岩をぶっつけた。そして怒ったのなんのかんの。
でたらめに剣を振りました。すると敵がダダアンと鉄砲を撃った。五少年はグングン進ん

でいった。エブリーはなんのかんの剣でくると剣を半分に折ってしまう。敵も怒ってダアンと大砲を撃った。狙いが外れてみんな敵が死んでしまった。そこで敵のツルハシを取り岩を崩し、ついにあった。
そしてその宝を船に運びまたまた進んだ。するとルシドがグリーンの部屋に来て、グリーンが「なんだいルシド君。何か用かい。」「ウウン用でもないけど稲光が来たんだよ。」「エエ。」「ホレ来た。」ピカピカゴロゴと稲光が来た。
そして二十四時間たったある朝、またルシドが来て「敵が攻めてきました。」と言った。「敵小舟十台か。そんなのやっちゃえ」とグリーンが言った。
そして小舟がコテンコテンにやられた。そしてまたもトトレ島に行き五千人の家来を連れていった。

スチュピシドファロの最後

そしてハヤブサ号には百人置き、そしてファロの所に向かった。なんと敵は待ちかまえていた。「みんな進め。」とグリーンが言った。ダアンダアンと鉄砲を撃った。敵は一万人だった。
「敵の大将ファロ出てこい。」とグリーンが言った。「オー。」といったと思うとペチンと剣の音がした。
敵の軍艦はミリタリインス号だった。ミリタリインス号のほうが大きかったのでミリタリインス号が勝った。
そしてグリーンとファロの合戦は約三十分でついにグリーンが勝った。あとはインス号を奪い取りフランスに帰ることにした。
船はグングン強行を出しある港に着いた。

ついにフランスに帰る

そして山を登り、ついに城に着いた。そうして父に今までの旅の話をした。
そして幸福に暮らした。

終わり